

## ひろしま市民パブリシストによる バックステージレポート



### なにに？子どもが「落語」をやるって？！ 広島市三篠公民館の講座にて

文・写真：ひろしま市民パブリシスト 有田武志

落語は男性が演じるものと思っていた。

ところがこの度、三篠公民館の講座「子ども落語塾」の取材で、保育園児からセラー服姿も凛凛しい中学生までの女子が、6名も受講しているのには驚いた。

サラリーマンの傍ら、自らも落語を演じる、六ッ家千艘(りくつやせんそう)師匠が、2月11日に開催する、5-Daysこども文化科学館アポロホールでの「第10回子ども落語会」に向けて、指導をしてきた子ども達の習熟度を確認する、最終稽古日の事だった。座敷に座卓を並べ、その上に一枚の座布団を敷く仮の「高座」に、子ども達が次々と上り、持ちネタを披露していく。「寿限無」「強情炎」「目黒のさんま」等々、師匠が子ども用に脚色した、古きのかな時代の、どこか可笑しな主人公達が登場する古典落語の世界を伝授してきた。しかし、そこは子どものこと。度忘れする、間違える、表情が、所作がお留守になるなど、ハラハラさせられるが、子ども達には、「落語は楽しい」と感じてほしいと願う師匠の指導は大らかなもの。自らが、オーバーな表情や仕草で演じて見せると、笑ったり、神妙に見入ったり、たちまち会得していく子ども達。さて、どんな噺家さんが誕生しますやら。乞うご期待！



師匠の表情やしぐさをよく見えます



正しい扇子の所作を習います



主人公になりきっています



中学卒業で引退、最後の熱演です

そして、さあ「その日」がきた。

お～！カッコイイ！子ども達は全員和服姿だ。いつもの自分と違う装いにちょっと興奮気味ではしゃいでいる。赤い敷物で設えられた「高座」の先には観客が座っている。稽古場とは違う雰囲気を感じる素振りも見せず語りに集中する子ども達。話しが佳境に入ると、客席から笑い声や拍手が何度も沸く。「人が笑ってくれたら楽しいから」。その一心で頑張ってきた子ども達。「よお覚えて。やるもんじゃね」。孫の熱演に感嘆するお婆ちゃんのご感想だったが、家族でもない私でもそう思った。会場を出たら、小雪が寒風に舞っていた。豆噺家の見せた、ひたむきさが、帰路に付く私のホッカイロ役をしてくれた。

「ひろしま市民パブリシストによるバックステージレポート」は3ヵ月毎に掲載します。



## 私のグルメスポット

小料理bar にけんめ。(中区流川町)

「Legendary Trumpeter's Concert」(詳細→本誌P.15)に出演 小田和美さん(Trumpet奏者)おすすめのお店



### ●小田さんより

店名は「にけんめ。」ですが、1軒目から行きたいお店です。何を食べても美味しくお箸とお酒が進み、いつもお腹がいっぱいに。料理は毎日違うので、行く度に何かあるかも楽しみです。女将さんの笑顔とトークにも癒されます！カウンター6席だけなので1人で行っても他のお客様と話が弾む、アットホームなお店です。混み合うと入れないので行く前に電話すると思います。

### ●家庭的な温かさとおばんざい風料理が魅力。

カウンターに座ると目の前には女将さん自ら腕をふるった料理がズラリと並び、どれも美味しそうで迷ってしまう。カウンターの他に日替わりの肴もあり、メニューは全部で15～16品。牛すじカレーや広島菜の巻きむすび、あおさのりにゅうめんなどご飯物もあり、仕事帰りにしっかり食べて帰る人も。客の大半が一人で訪れ、その日居合わせた客同士が意気投合し盛り上がることもしばしば。女将さんはそんなシーンを見るのが一番の幸せなのだそう。みんなで同じ料理に舌鼓を打ち、気取らない会話でリフレッシュ。どこか家庭を連想させるくつろぎのある店。幅広い年代の人が惹かれるのもうなずける。



軽く飲んで食べて、一人3,000～4,000円

### 【小料理bar にけんめ。】

中区流川町5-25 Uビル2F  
TEL / 090-4577-6857  
営業時間 / 20:00～L.O.翌1:00  
※売切れ次第終了  
定休日 / 木曜、日曜、祝日

